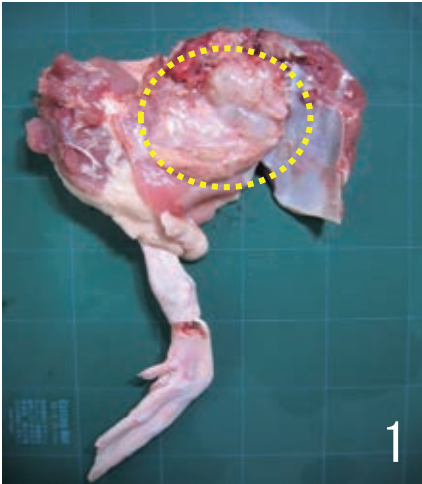
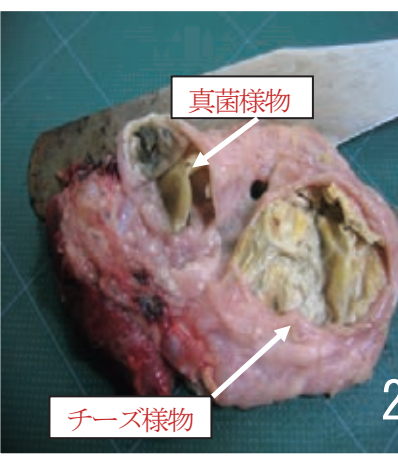

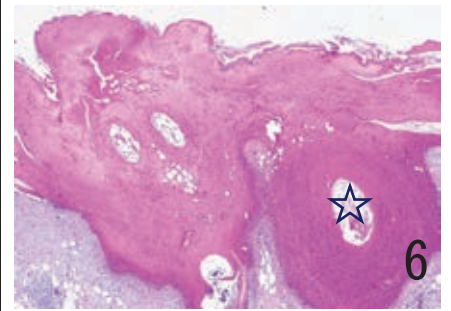


疾病 (異常)	<h2 style="text-align: center;">18 あひるの真菌症</h2>	
肉 眼 所 見	<p>1 アスペルギルス性気嚢炎、肺炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな病巣は後胸気嚢と腹気嚢に多くみられ、左右の気嚢のいずれかに偏る傾向がある。 ・気嚢全体が肥厚し、1つの嚢状物として観察される。 ・内腔に湿潤あるいは乾酪化した黄白色のチーズ様物が多量に充満し、粘膜面に暗緑色ないし灰緑色の真菌様物を伴う病巣が認められる。 ・気嚢が広範囲に透明に肥厚し、膜内にチーズ様物が集塊状あるいは散在性に認められる初期病変とみなされる症例も存在している。 ・結節病巣が気嚢と肺に形成される症例もある。 <p>2 接合菌性皮膚炎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頸部、胸部、腹部及び腰部を含む様々な領域の皮膚に長径3～50mmの類円形または方形の病巣が散在ないし多発している。 ・病巣は境界が明瞭で、厚い痂皮を伴い肥厚し、真皮のうっ血を伴うこともある。 ・病巣は表皮及び真皮に限局し、直下の皮下組織や骨格筋への炎症の波及はみられない。 <p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大池裕治, 他: 食鳥検査でみられたアイガモの <i>Aspergillus fumigatus</i> 性気嚢炎, 鶏病研報, 46, 188-192 (2010) 2 谷村信彦: 真菌症, 家禽疾病学, 鶏病研究会編, 130-133, 鶏病研究会, つくば (2015) 	
廃棄等の 措置の根拠	<h3 style="text-align: center;">別表第10 (全部廃棄)</h3>	
		
アスペルギルス性気嚢炎: 左後胸気嚢の全体が肥厚し、嚢状化している。	アスペルギルス性気嚢炎: 嚢胞化した気嚢に黄白色チーズ様物及び暗緑色胞子を伴う真菌様物を容れている。	アスペルギルス症肺炎、気嚢炎 (ホルマリン固定後): 直径5～20mmの結節は肺及び前胸気嚢に多発している。



接合菌性皮膚炎：腰部皮膚に長径50mm 方形の病巣が形成されている。病巣は厚い痂皮を伴い肥厚し、正常な皮膚との境界が明瞭となっている。

接合菌性皮膚炎：腹側頸部、胸部及び腹部の皮膚に長径が5～40mm の類円形または方形で、厚い痂皮を伴う病巣が多発している。

接合菌性皮膚炎：羽包周囲の真皮と表皮に肉芽腫が形成され、それらが癒合して病巣が大規模化している。★は羽包を示している。